

A decorative graphic consisting of three concentric, light blue circular lines that are open at the top and bottom, framing the central text.

第2章

町田市の現状

第2章 町田市の現状

1 町田市の特色

(1) 概況

町田市は、多摩地域の南部、神奈川県と県境を接する所に位置する、人口42万人を超える首都圏の中核都市です。町田駅周辺は百貨店やファッションビルが立ち並び、市外からも多くの人を訪れる商業地である一方で、市北部の丘陵地域は、里山や田園風景が残り、豊かな自然が首都圏の貴重な財産となっています。

(2) 協働による地域社会づくりの推進

町田市では、地域団体や市民など様々な地域の担い手と協働して、魅力ある地域社会を築き上げるため、市内10地区のうち9地区に「地区協議会*」が設立されています。地区協議会では、地区の現状や課題について話し合い、連携して課題解決に取り組んでいます。さらに、2019年4月からは、地域住民や企業などとの橋渡し役を担い、組織運営の強化を図る「(仮称)地域活動サポートオフィス」を開設します。

(3) 子育てしやすいまちづくり

町田市では、市内5カ所に子どもセンターと地域子育て相談センターを開設するほか、子育て世帯のお母さんに向けた情報誌「まちだ子育てブランドブック」の発行や、子育て世帯向けのウェブサイト「まちだ子育てサイト」の開設、駅から保育所まで子どもを送り迎えする「送迎保育ステーション」を開設するなど、子育て世帯を支援するための取組を多数行っています。

また、子どもたちが今後のグローバル社会で活躍できるよう、市独自の小学校英語教育として、絵本を使った授業づくりや放課後英語教室などの「えいごのまちだ」事業を実施し、子どもたちの英語力を育てています。

これらの取組から子育てしやすいまちとして、多くの子育て世帯に選ばれています。

(4) 生涯学習関連施設

町田市には現在、生涯学習センター、中央図書館と7館の地域図書館ほか、博物館、考古資料室、国際版画美術館、総合体育館、さらには、ひなた村や大地沢青少年センターなどの青少年施設があります。

*地区協議会：地域住民の生活全般に関わっている町内会・自治会と民生委員児童委員協議会、青少年健全育成地区委員会のほか、教育・福祉・防犯・防災・健康・環境等の多様な専門分野で活躍する地区内の各種団体が一つのテーブルに集まり、地区の情報を共有し、地区の課題について話し合い、取り組むべき事業を自ら選択し、事業を実施するための組織のこと。

また、明治期に多摩地域で興った自由民権運動の中心的地域であったことから、国内に3館しかない“自由民権運動”を主題にした「自由民権資料館」があります。さらに、遠藤周作氏をはじめ町田市にゆかりのある文学者が多いことから、地域に根ざした文学活動の拠点として「町田市民文学館ことばらんど」を設置しています。

2 生涯学習に関わる町田市の取組

町田市教育委員会では、「町田市教育に関する総合的な施策の大綱」を尊重し、「教育プラン 2014-2018」に基づき、生涯学習の一層の拡充、図書館の利便性のさらなる向上、文化資源の一層の活用等に重点的に取り組み、生涯学習に関する様々な施策を市の各部署や関係機関等と連携しながら推進しています。

町田市生涯学習センター（以下、「生涯学習センター」という。）では、2015年度から、地域との連携事業として鶴川地区協議会が開催している「3 水スマイルラウンジ」において、鶴川地区の歴史や文化を気軽に学べる講座「まなびのひろば」を開催しています。また、市の各部署との連携を促進するため、生涯学習連絡会（お悩み解決LABO）を立ち上げ、2018年には、大学（学生）との連携・協働をテーマとした連絡会を開催し、「学生との協働、連携ポイント集」を作成しました。

町田市立図書館（以下、「図書館」という。）では、2015年3月から、全館でICタグを利用したセルフ貸出・返却システムを導入し、図書館専用ホームページを開設、同年5月には忠生市民センター内に「忠生図書館」を開館しました。さらに、近くに図書館がない地域の市民向けに、2016年1月から子どもセンターばお分館で、同年7月から成瀬コミュニティセンターで、図書館資料の予約資料受渡サービスを開始しました。

町田市民文学館ことばらんど（以下、「文学館」という。）では、2016年に開館10周年を迎え、これを記念して、通年で特別イベントを開催しました。夏季展覧会「妖怪がいた！」展では、開館以来最高の16,604人の観覧者数を記録し、イベントでは、阿川佐和子氏や遠藤龍之介氏ら、作家を父にもつ子どもたちの座談会「父を語る」などを開催しました。これらの結果、年間入館者数は69,665人に達しています。

町田市立自由民権資料館（以下、「自由民権資料館」という。）では、2016年度に開館30周年を迎え、常設展をリニューアルしました。さらに記念事業として、研究者によるシンポジウム「民権運動再考Ⅲ 〈激化〉から考える自由民権」や、町田自由民権カレッジ*卒業生による市民協働展と市民協働シンポジウムを開催しました。

また、市にとって歴史的な意義のある多くの文化財を保護、周知するため、現行の指定文化財制度を補完するものとして、2015年4月に新たに登録文化財制度を導入しました。

*町田自由民権カレッジ：自由民権資料館が主催する講座。詳細は34ページのコラム「町田自由民権カレッジとは？」を参照。

生涯学習に関わる国及び東京都の動向

①法律の改正

国は、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図るため、2015年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」を改正しました。

②中央教育審議会の答申

2016年5月の中央教育審議会による「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」の答申では、学習の成果が広く社会的に活用されることによって、さらなる学習活動へとつながることで「学び」と「活動」が循環する生涯学習社会の実現について言及しています。

③東京都生涯学習審議会の建議

2016年2月に、東京都における生涯学習の振興に関し、長期的な展望に立って、広い視野から検討する東京都生涯学習審議会で、保護者や地域住民、そして企業・NPO等社会を構成する様々な主体が今後の教育においてどのような役割を果たしていけるのか、国や中央教育審議会による教育改革の動向を踏まえ、その方向性についてまとめました。

「今後の教育環境の変化に対応した地域教育の推進方策についてー地域教育プラットフォーム構想の新たな展開ー」の建議では、学校・家庭・地域が連携協力する仕組みづくりと考えている地域教育プラットフォーム構想を学校区レベルで取り組むよう支援していくことなどが提言されています。